

地域の情報を届け!

## 三高支店 ふれあい感謝祭



JJA三高支店は女性部三高支部と共に12月5日、同支店で三高支店ふれあい感謝祭を開催しました。地元の新鮮野菜、女性部の焼き込みご飯・おはぎ・豚汁とJA職員の焼きそばを販売しました。抽選会も行ない、多くの来場者で盛り上がりました。平岡支店長は、「地域の皆さんに大勢来ていただき、触れ合うことが出来てよかったです」と話しました。



▲倉西さんと一緒に収穫する児童

## 「広甘藍」の収穫・販売体験 呉市立明立小学校



12月11日、呉市郷原町で地元の伝統野菜「広甘藍」の収穫・販売を体験しました。

広カラン生産組合の倉西大助さんの畑で生産者や呉市職員、JA職員に手伝つてもらいながら包丁でひとつひとつ収穫し、重さを計り階級ごとに選別しました。収穫直後の新鮮な生の「広甘藍」を試食した児童は「普通のキャベツとは甘さが違う。ロールキャベツにして食べてみたい」と広甘藍を抱えて笑顔で話しました。

12月にはJA呉グリーンセンターでレジ打ちや梱包、自作のポップで来店客に呼び掛けるなど商品PRと販売体験を行ないません。



▲来場者で賑わう三高支店

## 葉つきみかん出荷



JJA下島集出荷場で12月16日、「葉つきみかん」の選果・出荷を行ないました。

葉っぱを3・4枚残して出荷するため、機械での選果や箱詰めができず、すべて手作業で行なっています。呉市下蒲刈地区は県内最大の生産地で約150戸が生産しています。今年は猛暑の影響が心配されましたが、適度に雨が降ったため玉太りも良く、昨年より2t多い18tが広島や関西など全国に出荷されました。広島果実連の石川技師は「縁起物としてお正月飾

## 正月彩るミツバの出荷 (田中農園)



江田島市の田中農園では、12月25～29日にかけて正月の需要に向け、ハウス栽培された約1万束(1束50g)のミツバを出荷しました。

同農園では市場からの要請を受け、2016年からミツバの栽培に取り組んでいます。10月下旬に播種し、水耕ベンチで約3ヶ月間かけて育てられたミツバは、約1週間で全ての収穫・出荷作業を終えます。作業は全て手作業で、「田中農園」の文字が入ったオリジナルステッカーを貼った袋で広島市へ出荷されています。



▲すべて手作業で行なわれているミツバの収穫



▲手作業で行われる選果

ミツバに仕上がった。家庭で正月の雑煮などに入れて楽しんでほしい」と話しました。

りに利用していただくほか、食べても非常においしいです」と話しました。



## ■一言

今月もせん定作業が中心となります。来月になると樹液の流動が始まることで、発芽期を迎えます。せん定が遅れると貯蔵養分の浪費につながりますので、今月中にはせん定が終了するようにしましょう。

昨年の状況を思い出しながら作業性向上を優先にせん定を行ないましょう。



2月の家庭菜園は、春から夏にかけての野菜作りの準備を始める大切な時期です。まだ肌寒い日もありますが、防寒対策をしっかりと行なえば、様々な野菜を育て始めることができます。

## ●2月にすべき主な作業

2月に行なうべき作業は大きく分けて2つあります。

## 1 土づくり

堆肥や有機物を混ぜ込む土づくりは、種まきや植え付けの2～3週間前には済ませておく必要があります。そのため、2月中に始めることが大切です。

・寒おこし（天地返し）…土を深く掘り返して混ぜることで、土の偏りをなくし、病原菌や害虫対策、

水はけの改善を図ります。

・土壤改良…ジャガイモは酸性の土壤を好みますが、多くの野菜は弱酸性の土壤を好むため、土壤酸度計で測定し、必要であれば苦土石灰などを施して調整しましょう。

## 2 夏野菜の育苗

ナス科の野菜（ナス、ピーマン、トマトなど）は、苗から植え付け可能なまでに2ヶ月以上かかるものもあります。種から育てる場合、4月の植え付けに間に合わせるため2月から育苗を始めるのがおすすめです。

・保温対策…2月はまだ気温が低いため、暖かい室内で種をまくか、保温設備を利用して苗を育てま

しょう。ビニールをかぶせる、家庭菜園用の温室を利用するなどの方法があります。

・栽培スケジュール…限られたス

ペースで効率よく野菜を育てるため、年間を通じた栽培スケジュールを立てることが重要です。連作障害を避ける計画も立てておくと良いでしょう。

## ●2月に植えられるおすすめ野菜

2月に家庭菜園で植えられる野菜はたくさんあります。寒さに比較的強い葉物野菜や根菜類、そして成長に時間がかかる夏野菜の育苗を始めるのに適しています。

## 葉物野菜

・キヤベツ…温室で苗を育ててから畑に植えるのがおすすめ。発芽から収穫までが比較的短い種類もあります。

・ブロッコリー…キヤベツと同様に、温室で苗を育てると良いです。発芽適温は20～25℃です。

・ブロッコリー…キヤベツと同様に、温室で苗を育てると良いです。発芽適温は20～25℃です。

・リーフレタス…結球しないレタスで、根元を残して収穫すれば何度も楽しめます。栽培期間が短く、育てやすいのが特徴です。

・ホウレンソウ…酸性土壤を嫌うので、土のpHを中性に調整すると良いです。有機石灰や木灰がおすすめです。

・コマツナ…土壤への適応性が高く、栽培期間も短いので初心者にもおすすめです。

・シュンギク…独特の香りが特徴で、鍋料理などにぴったりです。

・ジャガイモ…寒さに強く、2月下旬から植え付けが可能です。幅広い料理に使えます。

・ダイコン…2月に種まきができます。

・ハツカダイコン（ラティッシュ）…短い期間で収穫でき、プランターでも育てやすい人気の野菜です。

・ニンジン…2月に種まきができます。

## その他

・エンドウ（サヤエンドウ）…未熟なさやを収穫するサヤエンドウも2月に植え付けが可能です。

・ナス・ピーマン・トマト…これらは育苗に時間がかかるため、2月から種をまいて苗作りを始めるのが良いでしょう。

## ●栽培の管理ポイント

2月に植える野菜の栽培では、温度管理が特に重要です。

・保温対策…種まきの際は、育苗ポットにビニールをかぶせたり、家庭菜園用の温室を利用したりして保温します。畑やプランターに直接種をまく場合も、ビニールなどで保温します。

・霜対策…寒い時期は、敷きわらなどを使ってマルチングを行ない、霜対策をしましょう。

・防虫対策…発芽後は、不織布などをかぶせて防虫対策をします。保温効果も期待できます。虫の被害が少ない春キヤベツも、防虫ネットで対策することで比較的簡単に育てられます。

・連作障害の回避…同じ科の野菜を同じ場所で続けて栽培すると、病気になつたり生育が悪くなつたりする連作障害が発生しやすくなりますが、連作障害を防ぐためにも、異なる科の野菜を植えることや、適切な間隔を空けることが大切です。

# ときめき女性部通信

## 新年に向けて各地でおせちと押絵の講習会

JA女性部呉地区本部では、新年を迎える準備として各支部でおせち料理や干支の押絵の講習会を行ないました。おせち料理の講習会では、「家の光」レシピと家の光講師（やのはらかずみさん）の特別レシピを組み合わせた調理をしました。また、押絵の講習会では、新年の干支である馬をかたどったお手玉などを作成しました。参加した部員の方からは「年末の忙しい時期でも、皆で料理をして楽しかった」と笑顔がこぼれました。



鹿川支部



広北支部の大きな押し寿司



中町支部



中町支部のおせち料理



深江支部の押絵（お手玉）



音戸支部波多見グループの押絵



広支部広西グループ